

あごねっと便り

2017年2月 第35号

平成 29 年 3 月 3 日
ながさき県北地域
医療教育コンソーシアム
<http://agonet.jp/>



●柿添病院●

遙か静岡から、丸一日かけてたどり着いた平戸の地。多くの店がシャッターを閉めている中でも営業していた店で食べたちゃんぽんは、東京のリ〇ガーハットとは全く異なる、まさにちゃんぽんの源流とも言える深い味わいであった。そして遙か広がる日本海と点在する島々、ポルトガル来航以来の歴史に囲まれ、あなたの心は大海を航海する「第二フェリー度島」のように、落ち着きと希望で満たされるだろう。そんな平戸の中心地に位置するのが、柿添病院である。どんな患者も拒まない体制の中で急性期から慢性期まで多くの事を学ばせていただいた。優しく、かつ真摯に医療に取り組む医師達、小規模ながらもアットホームな病院スタッフ、病院食とは思えないクオリティの検食等最高の環境がそこにはある。地域医療で学ぶことは尽きない。訪問診療、離島訪問、リハ実習、保健所研修など、毎日が初体験の連続である。業務終了後は一日の疲れを温泉で癒し、赤く輝く平戸大橋に思いを馳せつつ、翌日の研修に備える。他病院から来た研修医や若手医師と切磋琢磨しあう日々、そこには私の探していた「充実」という二文字が確かにあった。都市部の市中病院とは似て非なる環境。そこから何を学ぶかは、研修に来たあなた次第だ。1か月間、多くの事を学ばせていただき、大変お世話になりました、誠に有難うございました。

酒井 陽玄 (九州中央病院)、明石 一浩 (静岡済生会総合病院)

●青洲会病院●

海を望む青洲会病院で2ヶ月間研修をさせて頂いております。船の上で何ヶ月も過ごす漁師さんが運動不足になりがちである、といったこれまで想像もしなかったことに気づいたり、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。お気に入りの場所は平戸城の隣のCOLAS 平戸図書館です。綺麗で、目の前に海が広がり、wifi も使えて最高なので、ぜひ行ってみてください！

大熊 彩子 (東京大学医学部附属病院)

●平戸市民病院●

平戸市民病院での診療の三本の矢は、職場健診、訪問診療、定期外来と考えます。職場健診の受診者は様々な心血管リスクを抱えていますが、さほど気に留めていません。医師としては、体型と生活習慣を改善しない限り将来心筋梗塞等になるのではないかと心配になります。少しでも健康に気を配ってほしいと願いながら、生活指導を行います。訪問診療の多くを占める、脳卒中、認知症の患者はしばしば症状を訴えることができません。在宅診療の理論に基づいて、積極的に問題を探ります。例えば内服薬飲み忘れの原因として、種類が多すぎないか等を検証します。また訪問看護師と協力し、適切な処置、指導を行います。定期外来の多くは現行の治療を継続しても問題ありません。ただし治療変更が必要な状況を幅広く把握しておかなければなりません。必要であれば専門治療を行うことができる大病院に送る必要があります。平戸市民と九州本土をつなぐ役割を担う当院はまさに「医療の平戸大橋」です。地域研修を通して、病気ではなく患者を診る姿勢を学びました。短い間でしたが、優しく見守ってくださった平戸市民病院のスタッフの皆様方、どうもありがとうございました。

池田 周平 (京都医療センター)

下永吉 下永吉 洋平 (長崎大学病院)

●生月病院●

島内唯一の入院施設である病院で、定期外来、急患対応、往診、入院診療など多岐にわたる業務を、限られた医療資源の中で実践していくことの大変さを学んだ1ヶ月でした。と同時に、これまでの研修ではあまり感じる機会がなかった、患者さんと医療従事者との強い信頼関係を目の当たりにし、コミュニケーションも医療の一環であると実感しました。また、仕事以外の時間では生月・平戸の観光地を巡ったりグルメを食べたりと、公私ともにとても充実した1ヶ月でした。

水崎 俊 (長崎医療センター)